

# 異常気象分析検討会の 報道発表等の改善について

～ 科学コミュニケーション専門家、報道関係者、  
気象予報士へのヒアリングを受けて ～

## 昨年度の意見交換における主な意見：

- ・ 大学では異常気象情報のより良い社会発信に向けて取り組んでいる。気候変動リテラシー向上、連携強化の方策、社会への情報発信の観点から、検討会の活動にも参考になると考えられる。
- ・ 検討会を通じて最新の研究成果を学と官で互いに共有し、異常気象の分析結果を社会に対して効果的に伝えていくことが重要である。
- ・ イベント・アトリビューションについて、社会の関心の高まりを考えると、一層スピーディーかつフレキシブルにその情報を発信する工夫が望まれる。
- ・ **次回も本テーマについて議論することが必要。受け止める側にとって一層わかりやすく且つ的確な情報発信ができるとよい。特に情報発信のタイミングが難しいが、適時の情報発表のために柔軟な体制をとるのがよい。**

## 報道発表に対する意見：

- ・ とにかく、**内容が難しく**、学会発表のような内容も含まれている
- ・ 報道発表は、**国民に向けて実施するものという意識が欠けている**のでは
- ・ 社会に広く理解してもらうためには、**もっとわかりやすく伝えるべき**
- ・ 現象が終わってしばらく経っており、**このタイミングでは、記事にしにくい** 等々

## 原点に立ち返って、以下のような観点について、ヒアリングを実施

- ・異常気象が発生した際、どのような情報が、どのようなタイミングで求められるのか
- ・報道発表資料は、どのように構成し、どれくらいの難易度にすべきか
- ・社会により広く認知してもらうには、どうすればいいか
- ・社会に対するこれらの行動において、気象庁はどのような役割を果たすべきか

## ヒアリングにご協力いただいた方（各分野50音順、敬称略）

### ・科学コミュニケーション専門家 4名

田中幹人（早稲田大学政治経済学術院教授）

藤垣裕子（東京大学総合文化研究科教授・副学長）

柘太一（同志社大学ハリス理化学研究所助教、元日テレアナウンサー）

村松秀（近畿大学総合社会学部教授、元NHKプロデューサー）

### ・報道関係者 3名

安藤淳（日本経済新聞 編集委員）

川村敦（共同通信 気象・災害取材チーム事務局長）

中丸憲一（NHK災害・気象センター専任記者）

### ・気象予報士 3名

伊藤みゆき（NHKラジオキャスター）

今井明子（一般社団法人日本気象予報士会サニーエンジェルス代表、サイエンスライター）

森朗（株式会社ウェザーマップ代表取締役社長、TBSテレビ「ひるおび」気象キャスター）

### ・教育関係者 1名

坂田篤（清瀬市教育長）

## ① ターゲットの多様性 ⇒ **ターゲットを階層化して情報設計する**

- ・ 市民：納得感＋行動につながる情報、 記者：記事化しやすい構造・図・用語、 予報士：専門的な根拠資料（別紙）という3層を明確に分けて設計する

## ② 情報の“入口”が難しすぎる ⇒ **囲みを“入口”として再設計**

- ・ 囲みは 市民でも理解でき、記者がそのままでも使える内容に
- ・ 本文は記者向けの囲みの解説、別紙は専門家向けに要因分析を詳細説明したものに役割分担

## ③ 発表タイミングが遅く、社会の関心が低下 ⇒ **速報＋詳細の二段階方式に**

- ・ 速報（現象発生中）：簡易な要因＋予測＋シンプル図＋共同取材
- ・ 詳細（検討会后）：深い分析＋合成図＋委員コメント＋記者会見  
の二段階方式にすることにより、ニュースバリューと科学的分析の意義を両立

## ④ 「メディア側の思考」への検討会側の理解が不足 &

## ⑤ 図・模式図がターゲットに最適化されていない

⇒ **専門用語は1要因1つまで、図はテレビで使えるレベルに最適化**

- ・ 文章、模式図ともに、因果関係がわかりやすく見える構造にする
- ・ 言い換えすぎると誤解を生むため、専門用語＋用語集 の組み合わせで対応
- ・ 合成図1枚と要因別の分けた模式図に
- ・ 色覚の多様性にも配慮

## ⑥ 市民に情報を伝える記者・予報士への支援が不足 ⇒ **サポートを充実**

- ・ 記者向け勉強会、予報士向け解説会の開催
- ・ 専門用語の解説を整備するとともに、メカニズムを理解しやすいポンチ絵や動画を作成

- ① ターゲットの多様性 ⇒ **ターゲットを階層化して情報設計する**
  - ② 情報の“入口”が難しすぎる ⇒ **囲みを“入口”として再設計**
  - ④ メディア構造の理解不足 & ⑤ 図・模式図が“伝える側”に最適化されていない  
⇒ **専門用語は1要因1つまで、図はテレビで使えるレベルに最適化**
- **構成は、囲み＋本文＋別紙で問題ない**
    - ・ タイトルは、伝えたいことをキャッチーに ⇒ Xポストにも利用
  - **囲みには、何が異常で、何がもたらしたのか、今後はどうなるのかを記載**
    - ・ 現象、期間、程度を具体的な数値とともに（市民が感じている“異常”を意識しつつ）
    - ・ 最低限の数に絞った要因を記載し、シンプルな要因毎の模式図を付加
    - ・ （速報の場合）社会的影響も踏まえて見通しを記載
  - **要因（シンプルな文章、専門用語は1要因につき1つまで）**
    - ・ 本紙には、ストーリー性を持たせた要因を記述
  - **要因を合成した1枚の図（本紙）**
    - ・ 情報量を絞りつつも、最低限の因果関係が見える構造
    - ・ テレビで使えるレベルに最適化、鉛直構造の図示には工夫が必要
  - **詳細分析結果と個別要因図（別紙）**
    - ・ 別紙については、現状のように、因果関係を深掘りした詳細な分析結果で問題ない
    - ・ ただし、専門用語については、説明が必要
    - ・ 各要因別にメカニズムをシンプル化した模式図を掲載し、理解を助ける
    - ・ 必要に応じて、委員の個別意見を記載し、多様な視点を紹介

## ⑥ 市民に情報を伝える記者・予報士への支援が不足 ⇒サポートを充実

### ・ 記者・予報士への支援

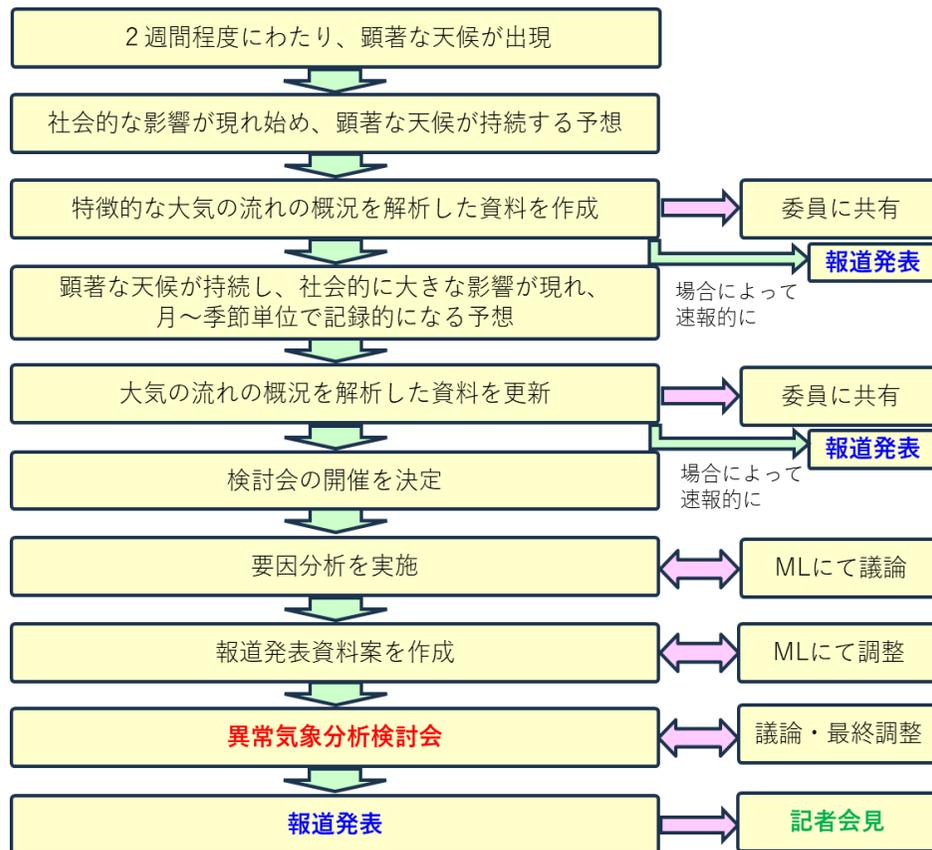
- ・ 新たに担当となった記者向けに気候を知るための基礎資料を整備
- ・ 夏前に↑の資料を用いた説明会＋何でも質問会を実施
- ・ 予報士向けには、検討会開催後に「別紙」の解説会を実施
- ・ 専門用語は、そのやさしい説明と専門的な補足・解説をHPに予め用意

### ・ 市民へのアプローチ

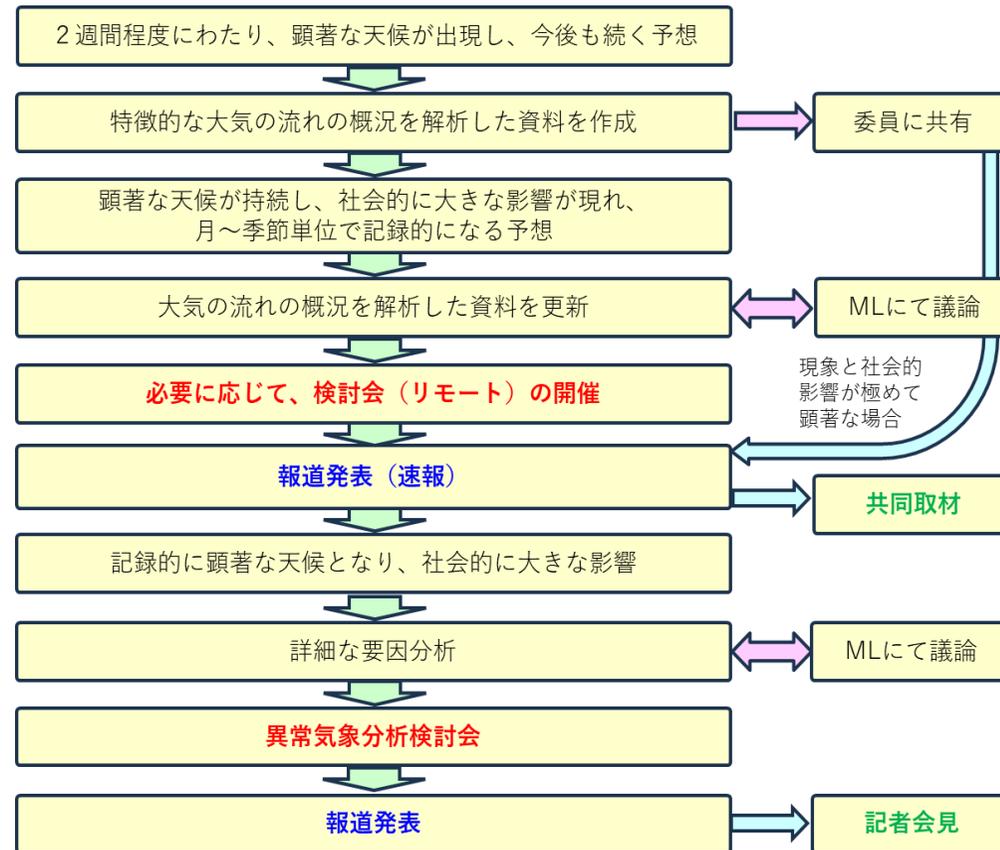
- ・ まずは、情報伝達の間接層である、記者・予報士に正しく理解してもらう
- ・ 記者会見やカメラ取材における説明では、視聴者の“納得感”を意識して話す
- ・ Xの投稿は、キャッチーなフレーズを使用
- ・ 潜在的関心層や低関心層に耳にしてもらうために、朝番組や週末番組で取り上げてもらえるような取り組みを行う
- ・ 子どもに知ってもらうことは、情報が家庭に反映されることにより、市民への広がりにつながることから、まずは、先生へのアプローチもポイントとなる
- ・ 子どもでも理解できる、わかりやすく要因を解説したショート動画（紙芝居風）を試しに作成し、その費用対効果を試してみる

# 具体的な改善案③ (発表タイミング)

## 現在の流れ



## 改善後の流れ



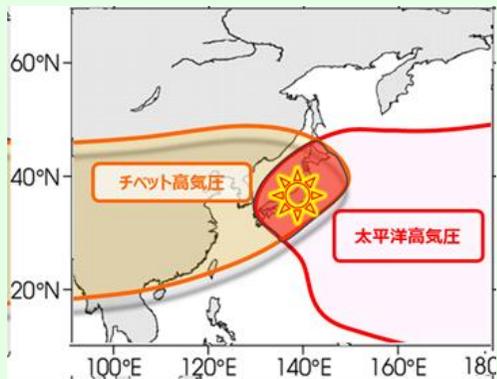
※ 速報発表は、既存の枠組みも活用しつつ実施

## 速報発表

- ・ MLで議論した後、必要に応じて8月頭にリモートで検討会を開催、共同取材に対応
- ・ 7月の実況(異常度に注目)+特徴を示した概念図+今後の見通しで、囲み+本紙1枚で構成

## 詳細発表

- ・ 9月に対面で検討会を開催し、記者会見を実施
- ・ 改善提案を受けて、タイトルと囲みは→のように、囲み掲載の概念図は↓のように、本文は囲みを補足解説する内容で



背の高い高気圧の3次元イメージは要検討

- ・ 別紙には、委員の専門的見地からの意見を追記

## 背の高い高気圧と地球温暖化が記録的な暑夏をもたらした ～ 異常気象分析検討会による要因分析の結果 ～

### ○ 全国的に過去最も暑い夏となった

- ・ 日本の夏平均気温偏差は、+2.36°Cと昨年の記録を大きく上回り、3年連続で記録を更新
- ・ 国内の歴代最高気温となる41.8°Cを群馬県伊勢崎で観測

### ○ 要因

- ・ 背の高い暖かい高気圧に覆われ、晴れの日が続いた
- ・ 偏西風が大きく北側に蛇行したこと及びフィリピン付近の積乱雲の発生が多かったことがこの高気圧を強めた
- ・ これらには、太平洋熱帯域西部で海水温が高かったことが影響

### ○ 地球温暖化の影響

- ・ 地球温暖化がなければ、発生し得ない気温だった
- ・ 一方で、現在の地球温暖化の状況下でも約60年に一度の現象だった

↑循環場の影響と温暖化の影響を何°Cと示せばわかりやすい

## 順次実施していく取り組み

- ・ 専門用語をそのまま用いる用語と言い換える用語に分類
- ・ 言い換える専門用語の言い換え辞書を作成
- ・ 代表的なメカニズムのわかりやすい模式図を用いた解説を気象庁HP上に作成
- ・ 新たに担当となった記者向けの入門資料の作成
- ・ 記者向けの入門資料の説明会や「なんでも質問会」の開催
- ・ 今後の模式図のひな型として、いくつかの典型的な模式図の作成を検討

## 異常気象発生時に実施する取り組み

- ・ 異常気象分析検討会開催後（1週間後くらい）に、予報士向けの解説会を実施する
- ・ 子どもでも理解できる、わかりやすく要因を解説したショート動画（紙芝居風）を試作する

## その他

- ・ イベントアトリビューションの高度活用  
（循環場異常の影響と温暖化の影響がそれぞれ何°Cと示せばわかりやすい）